

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

## 12&1

DECEMBER / JANUARY  
2007 2008

### CONTENTS

ニュー・イヤー・コンサート 2008.....	1
クリスマス・プレゼント・コンサート 2007.....	2
モーツァルト： ピアノ・ソナタ全曲演奏会.....	3
アートタワーみとスターライトファンタジー 第12回クリスマス・コンサート.....	4
水戸の街に響け！ 300人の《第九》.....	4
SELF PORTRAIT 佐藤 篤.....	4
最近の公演から.....	5 ~ 7
速報：MCO最新CD発売！.....	7
インフォメーション.....	8



写真左上；林 美智子

写真上右；キャロルの祭典(クリスマス・プレゼント・コンサート 2004 から

写真下；ニュー・イヤー・コンサート 2007 から

## ミュージーズ 音楽の女神に捧ぐ、新春の音楽の饗宴。

### 1 / 5(土)ニュー・イヤー・コンサート 2008

早いもので、つい先日「ニュー・イヤー・コンサート 2007」を行ったばかりのような気がするのに、もう年末の足音が聞こえてくる季節となりました。時間の流れの速さに驚きつつも、今年もこうして変わることなく「ニュー・イヤー・コンサート 2008」のご案内を皆様にお届けできることを嬉しく思います。

さて、水戸芸術館が誇る専属楽団のメンバーを中心に、豪華なゲストを迎えて行っている毎年恒例の「ニュー・イヤー・コンサート」、2008年のテーマは「音楽の女神に捧ぐ」です。あるときは音楽の靈感の源となり、あるときは創り手として、弾き手として音楽を生み出していった「女性」に捧げる音楽会です。プログラムは、皆様からいただいた「大吉リクエスト」をもとに、現在鋭意検討中。いつものように、当日まで楽しみにお待ちいただければ幸いです。

さて、さっそくですが、出演者をご紹介します。まずヴァイオリンは、水戸室内管弦楽団(MCO)やATMアンサンブルで活躍し、すっかりおなじみの、加藤知子、久保陽子、久保田巧、小林美恵、中村静香、沼田園子、堀伝の面々。そして、久しぶりの登場となるのは松原勝也です。現在は水戸室内管弦楽団の団友ですが、水戸芸術館に響いた力強く雄弁なヴァイオリンをご記憶の方も多いことでしょう。現在、東京藝術大学音楽学部准教授として教鞭をとる一方、その活動はいっそうの広がりを増し、ジャンル

を超えたアーティストとの共演も積極的に行っています。さらなる深みと充実を加えた松原勝也のヴァイオリンにふたたび出会えるのは、嬉しい限りです。ヴィオラは、MCOメンバーの店村眞積と、今年から新たにMCOメンバーとなった川本嘉子。チェロはMCOメンバーの堀了介、松波恵子というおなじみの布陣に、今年MCOメンバーの原田禎夫が新たに加わりま。室内楽の名手として知られ、昨年(2006年)3月4日に行われた水戸芸術館友の会主催のリサイタルでも聴衆を魅了した原田禎夫の登場は、心強い限りです。コントラバスはMCOの黒木岩寿、永島義男というニュー・イヤー・コンサート不動の二人。トランペットはやはりMCOの杉木峯夫。そしてピアノは、作曲家・ピアニストとして世界的な活躍を続ける野平一郎が4年連続の登場。野平一郎は来年水戸芸術館で『モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会』という大きなプロジェクトを始動させます。オルガンは昨年に続いて椎名雄一郎。椎名雄一郎もまた、来年3月10日(月)に水戸芸術館でオルガン・リサイタルを行います。さらに、2年ぶりの登場となるハープの吉野直子。ハープの女神というべき吉野直子が、今回のニュー・イヤー・コンサートで、いつにも増して活躍してくれるだろうことは、大いに期待できます。

そして今年の「歌の女神」はメゾ・ソプラノの林 美智子。水戸芸術館には、これが初登場です。

バロック・レパートリーからベルク ルル ま で幅広いレパートリーを持つ彼女は、来年3月に神奈川県民ホールで行われるベルリン・コーミッシェ・オーパーのプロダクション、リヒャルト・シュトラウスの ばらの騎士 でもオクタヴィアンを歌うことが予定されるなど、まさに今「旬」の歌手手としての評価を集めています。ふくよかなメゾ・ソプラノの声で、どんな「女性」を演じてくれるか、期待がつのります。そうそう、まだ決定していませんが、司会にどんなアナウンサーが登場するかもお楽しみに。そしてこの演奏会、2006年、2007年同様、NHK県域デジタル放送にて生中継されます。

「ミュージーズ」は古代ギリシャの神話の女神、ムーサのこと。カリオペー、クレイオー、エウテルペー、タレイア、メルポネー、テルプシコラ、エラトー、ポリュヒュムニア、ウーラニアの9女神の総称です。彼女たちは抒情歌や合唱、喜劇などさまざまな音楽を得意とし、また知を司る存在です。私たちの心を潤す音楽、よく生きるための知、いずれも源は女性というわけです。女性に捧げられるこの新春の演奏会が、皆様の新しい年を生き生きと、華やかに彩るファンファーレとなりますように。チケットは残席わずかです(11月5日現在)。これからの方は、どうぞお早めにお問い合わせを。完売の際はご容赦ください。

《矢澤》



写真左；小濱妙美  
写真右；村越大春

## 明るく澄んだ歌声が、元気の種となりますように！

12/23(日・祝)クリスマス・プレゼント・コンサート 2007

毎年恒例の畑中良輔氏の企画でお届けしているクリスマス・プレゼント・コンサート。今年も、ヴァラエティーに富んだプログラムと出演者で、聖夜にちなんだ心温まる音楽会を皆様にお贈りします。今回のコンサートのテーマは「歌」です。今の時代が暗く沈みがちな風潮であるからこそ、明るく澄んだ歌の力で、皆の心を元気にしたい！——それが今回のプログラムに籠めた畑中氏の想いです。

国際的な名ソプラノ歌手と新進気鋭のテノール歌手

今年のコンサートには、2人の歌手が登場します。ソプラノの小濱妙美とテノールの村越大春です。

小濱妙美は水戸芸術館のステージにもたびたび出演しているので、よくご存知の方も多いかと思えます。近年では畑中氏企画の「オペラの花束をあなたへ14——ヴァーグナーの祭典(2002年)」で、タンホイザー、トリスタンとイゾルデ、ニュルンベルクのマイスタージンガーなどの名アリアを熱演し、豊かな歌声を聴かせてくれています。彼女の経歴を簡単にご紹介しましょう。東京芸術大学、同大学院修了後、エリーザベト・シュヴァルツコプフに才能を認められ、1984年からスイスに留学。88年のバヴァロッティ・コンクールや90年のチャイコフスキー国際コンクールなど数々のコンクールに入賞。93年、ドイツのブラウンシュヴァイク劇場にて、タンホイザーのエリーザベト役でヨーロッパ・デビュー。その後ヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。97年の新国立劇場オープニング公演ヴァーグナー ローエングリン にエルザ役で出演、絶賛を浴びています。2006年5月にはカーネギーホールでリサイタルを開催、客席が総立ちとなるほどの賞賛を得ています。現在はニューヨークに在住して、国際的に活動を行っています。わが国が誇る名ソプラノが、再び水戸の舞台上に登場します！どうぞご期待ください。

テノールの村越大春は、今春、東京芸術大学の大学院を修了したばかりの俊英です。04年には芸大フィルハーモニアや神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演。オペラの分野では、05年に新国立劇場で行われた菊池彦典指揮・文化庁人材育成オペラ公演ブッチーニ ジャンニ・スキッキ にテリヌッチョ役で、デビューを果たしています。以来、ブッチーニ 蝶々夫人(ピ

ンカートン役)、ヴェルディ 椿姫(アルフレード役)、モンテヴェルディ ポッペアの戴冠(ネロ役)、モーツァルト コシファントゥウツテ(フェランド役)など国内の数々のオペラ公演に参加していますが、本格的な活動はこれからです。ビッグ・チャンスを見逃さずと狙いつつ、今まさに大きく売り出そうとしている若い才能です。フレッシュでピュアな魂と共に発せられる彼の歌声に、ぜひご注目いただけたらと思います。

「歌」を巡る3つのステージ

小濱妙美と村越大春が繰り広げる「歌」のステージは、全部で3つの部分から構成されます。

演奏会の幕開けとなる第1ステージは、宗教的な題材をもつ聖なる歌曲の数々をご紹介します。最初の2曲はどちらもソプラノで歌われるアヴェ・マリアです。1曲目は、パッハの旋律をベースに、グノーが優美な旋律を重ねた名曲です。2曲目は、無名であったマスカーニの名を一躍世界中に知らしめた歌劇カヴァレリア・ルスティカーナの中のとても優美な間奏曲の旋律が抜き出されて歌われるアヴェ・マリアです。続く2曲はテノール作品。まずはビゼーのアニュス・デイ。「アニュス・デイ(神の子羊)」というミサ典礼文を歌詞とする独唱曲で、ビゼーが生み出した心打つ旋律のひとつに数え上げられています。そして、ニデルマイエールの教会アリア 主よ、み恵みを。実はこの作品は、ストラデッラの同名作品として広く知られており、今日でもたいへん人気があるのですが、最近の研究により作曲者はストラデッラではなく19世紀前半に活躍したスイスの作曲家、教育家のニデルマイエールであると結論付けられています。当館ではこの研究成果をふまえた作品名の表記を行っています。

第2ステージは、ブッチーニの傑作オペラ ラボエーム のハイライトをお贈りします。舞台は1830年頃のバリ。クリスマス・イヴの日の出来事です。その日暮らしをしている詩人ロドルフォは、締め切りの迫った原稿を書いていた。そこへ階下に住む娘ミミがろうそくの火を借りてやって来ます。こうして2人は出会い、恋に落ちます。悲しい結末が待っていることなど知らずに……。出会いのときめきに彩られた愛の歌、そして、別離を嘆く悲しみの歌など——どうぞ、じっくりとご堪能ください！

恒例のクリスマス・プレゼント抽選会(第3ス

テージ)を挟んで、続く第4ステージでは、オペラ・アリアで巡るヨーロッパの旅へと皆様をお連れします。最初と最後の訪問地はイタリアです。華麗で優美なブッチーニの2作品 トスカと蝶々夫人をお楽しみいただきます。続いて訪れるのはドイツです。壮大なスケールをもつヴァーグナーのタンホイザーをご紹介します。そしてフランス。叙情的で甘美なマシネのウェルテルからのアリアです。オペラ作品の美味しいところばかりを抜き出した、オペラ・アリアを特集するステージです！

なお、これらのステージのピアノ伴奏は、これまでのクリスマス・コンサートなどでもお馴染みの名手・谷池重純子が務めます。

未来を担う若者たちによる感動のステージ

演奏会の最後を飾るのが、プリテンのキャロルの祭典です。本作品は、グレゴリオ聖歌が冒頭と最後に置かれ、中間部にハーブの独奏が挿入された、全11曲から成る連作合唱曲です。タイトルが示している通り、キャロルつまりクリスマスにキリスト降誕を祝うセレモニーのために書かれた作品です。合唱を務めるのは、全日本合唱コンクールなどで輝かしい経歴と伝統をもつ水戸の女声合唱の名門・水戸第二高等学校コーラス部とその卒業生たちです。顧問の寺門芳子先生による指揮が、彼女たちの清楚な歌声を紡ぎ上げます。さらに、クリスマス・コンサートではすっかりお馴染みとなった千田悦子さんがハーブを演奏します。千田さんは06年に、ハーブ界で最も権威があるとされているイスラエル国際ハーブコンテストで、第3位に輝きました！

未来を担う若者たちが、祈りとともに心をこめて歌声を重ねる、感動のステージを皆様にお贈りします。

終演後にはエントランスホールにて、水戸第二高等学校コーラス部によるキャロリングを予定しています。伴奏は3,283本のパイプ数を誇る大オルガンで行います。東京芸術大学オルガン科4年の石丸由佳さんが演奏します。

ぜひ、大切な方と一緒に、コンサートホールにお越しください。

《中村》



写真；野平一郎

## 野平一郎の演奏とご案内でめぐる、モーツァルト：ピアノ・ソナタの旅

### 1/25 (金) モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会【全6回】

#### 「音を楽しむ」

音楽は、その名のとおり「音を楽しむ」ものです。言葉や理屈がでしゃばることなく、純粋に「音を楽しむ」ことができたとき、真の音楽の喜びを味わったと言えるでしょう。

しかし、「音を楽しむ」のは、そう簡単なことではありません。1つの音、1つのフレーズ、1つの和音に、作曲家はさまざまな意味を込めたり、仕掛けを施したりしているからです。たった1度聴いただけで、作曲家の意図をすべて汲み取ってしまうことなど、そう簡単に出来ることではないでしょう。

そこで、音楽を深く聴こうとするとき、ある程度の準備が必要になってくるのです。

#### 知を求める精神

水戸は、徳川光圀の「大日本史」の流れを汲む水戸学が形成された地であり、現代の総合大学にも例えられる弘道館(1841年創立)が建てられた所でもあります。ここに暮らす人々の「知」に対する要求は、歴史的に高いものがありました。

このすばらしい伝統は、現代の水戸をとりまく音楽ファンの方々にもきちんと受け継がれているようです。2000年に開催した「シリーズ日本のうた・この100年」(全5回)は、ただ日本の名歌曲を並べただけでなく、歴史、作曲法、詩、伝承などとの関わりから、体系的に日本歌曲を聴き、学ぶ企画でしたが、満場のお客様にお越しいただき、大成功に終わりました。その他、お話付きのコンサートや講座関係の催しは、常に好評をいただいています。蛇足ですが、我々音楽部門の学芸員が講師を務めさせていただいている水戸市・国際交流センター主催の連続講座「クラシック音楽で巡るヨーロッパの街」なども、会場は聴講の方で溢れんばかりという盛況ぶりなのです。

#### モーツァルトを楽しむ

音楽を深く聴こうとするとき必要な「ある程度の準備」をまったく厭わない水戸のお客様のために、さらに充実した企画を・・・と考えて出来上がったのが、「モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会」です。(全6回/1年に2回ずつ)

演奏とご案内役には、当代きっての知的ピアニスト、野平一郎さんにご登場いただきます。その透徹したピアニズムは、シュニトケ 合奏協奏曲第1番 やバルトーク 弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽 を演奏した水戸室内管弦楽団定期演奏会(小澤征爾指揮)、ベトルーシュ

カなどを弾いた永野英樹とのピアノ・デュオリサイタルなどのほか、毎年恒例の「ニュー・イヤヤー・コンサート」でも披露してくれています。(08年のニュー・イヤヤーにも出演します。詳しくは1ページ参照)

ピアニストとしてだけでなく、世界的な作曲家としての顔も持つ野平さんのお話も、きっと皆様知的好奇心を満足させることでしょう。モーツァルトの人生や作曲法の変転、楽器との出会いなど、さまざまな切り口でモーツァルトのピアノ・ソナタに迫っていきます。

より深くモーツァルトの作品を聴き、より楽しくモーツァルトの音楽を味わうために ぜひ足をお運びください。

《関根》

#### モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会へのメッセージ

野平一郎

モーツァルトのピアノ作品は、私にとって永遠の愛の対象。子どもの頃から親しんできたこのレパートリーへの愛は、50を過ぎた今でも全くもって変わりません。その全ピアノ・ソナタをはじめとして、変奏曲や小品、また四手連弾や二台ピアノのための曲など、重要な作品のすべてを演奏できるというのは、この上ない法外な喜びです。2008年の最初の2回のコンサートのために、今着々と準備作業を進めています。楽しくて仕方がありません。

モーツァルトの音楽というのは、感情表現が多彩なのに、これほど自然に淀みなく流れ、屈託のないように聴こえる...これが魅力。モーツァルトを演奏する時、まず求められるものは「優雅さ」、そして何より「遊び」の精神がないとさまにならないでしょう。モーツァルトがそれを作曲した時に持っていたであろう「喜遊」の精神が、演奏の時に可能な限りよみがえるようにしたいと思っています。この「遊び」の精神を持てるかどうか、そしてそれが音楽の内容と照らしてふさわしいものであるかどうか、モーツァルト演奏の一つの秘密が隠されていると思うからです。また「喜遊」の精神とともに、「生成」の概念、すなわち正に演奏の現場で音楽が作られて行くという感覚を持つことなしに、モーツァルトの演奏は成功しないと思うのです。

全部で6回からなるこの全曲演奏会シリーズでは、ピアノ・ソナタを作曲された順番に演奏し

ながら、モーツァルトが体験した道を、皆さんと一緒に巡っていきます。1月と3月の2つのコンサートで演奏するソナタは、モーツァルトが19歳から22歳にかけて書いた最初の9曲。青年から大人になろうとするこのたった3年のあいだの、モーツァルトの音楽の発展と進化には驚くべきものがあります。ヨーロッパ各地をまわる天才ピアニストの作曲は、次第にピアニストとして活躍する天才的作曲家の作品へと脱皮、変貌していきます。まず1月の第1回では、5曲のソナタをまとめて、そのあいだに何と10歳で書いた2つのいずれも見事な変奏曲と、おそらく15歳で作曲されたと見られている小さく愛らしいメヌエットを挟み込んで演奏します。このようにして、モーツァルトのピアノ作品が、どこから来て、どこへ向おうとしているのかを明らかにしようと思っています。

3月の第2回のコンサートでは、いよいよ皆さんがよく聴かれるであろうピアノ・ソナタがいくつも登場してきます。第6番から第9番として知られる4曲で、いずれ劣らぬ傑作揃いですが、特にマンハイムで書かれた第7番のハ長調の両端楽章の群を抜いた優美さや、パリで書かれた第9番のイ短調の持つ疾走する悲しみの表現はどうでしょう。さらに、この4曲のソナタに加えて、25歳の時ウィーンで書かれた有名な変奏曲を1曲、通称「キラキラ星」変奏曲といわれている曲を演奏します。元の主題は、パリで当時はやっていた民謡「ああ、お母さん、あなたに申しましょ」をモーツァルトとは別の作曲家がオペラの中のアリアで使ったもの。モーツァルトはパリジャンが愛好していた流行歌の旋律を使っていくつも変奏曲を書きましたが、その中で最も親しまれているのがこの12の変奏曲です。またこの曲は2009年に行なわれる第3回、第4回で取り上げる曲、すなわち故郷のザルツブルグを離れ、いよいよウィーンで一躍時の寵児となるモーツァルトの作品群を予告するものでもあります。

ぜひ私と一緒に、水戸芸術館でモーツァルトの辿った軌跡を旅してみませんか。きっと、あなたの知らないモーツァルトが、いくつも発見できること間違いありません。

【注】野平一郎さんのより詳しいモーツァルト論は、岩波書店刊『思想』2006年第12号に掲載されている「モーツァルトの音楽、その演奏」をご覧ください。具体的に作品を分析し、演奏の可能性について語りながら、モーツァルトの音楽の神秘的な魅力に迫る、約20,000字の力作です。



写真左；アートタワーみと スターライトファンタジー 2006  
写真右；水戸の街に響け！ 300人の《第九》2006

写真；佐藤 篤  
(2005年12月、水戸芸術館でのリサイタルから)

## アートタワーみと スターライトファンタジー

### 12/9(日)第12回 クリスマス・コンサート [市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸芸術館のタワーや建物、さらに水戸駅前などをライトアップする冬の風物詩「アートタワーみとスターライトファンタジー」。その関連企画として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」を今年も開催します。今回は19校、26団体、およそ800人の子供たちが参加し、金管合奏、吹奏楽、合唱、器楽合奏などの演奏が行われます。入場無料の催しです。どうぞお

気軽にご来場ください。

《中村》

[参加校][午前の部]第一中(打楽器7重奏) 第一中(木管合奏) 第一中(金管合奏) 石川中(吹奏楽) 茨城大学附属中(合唱) 千波中(ミュージックケル) 第二中(リコーダー合奏) 双葉台中(器楽合奏) 双葉台中(吹奏楽) 第五中(ビッグバンド) 千波中(吹奏楽) 石川中(箏合奏) 第二中(吹奏楽)

常澄中(吹奏楽) 第四中(吹奏楽)

[午後の部]五軒小(合唱) 茨城大学附属小学校(合唱) 柳河小(器楽合奏) 酒門小(金管合奏) 渡里小(金管合奏) 吉田小(金管合奏) 吉沢小(金管合奏) 堀原小(金管合奏) 五軒小(吹奏楽) 常磐小(吹奏楽) 三の丸小(吹奏楽)

## 響きわたる歌声とともに、希望の光が空に満ちる

### 12/16(日) 水戸の街に響け！ 300人の《第九》

今年7回目を迎える、《第九》(ベートーヴェン：交響曲第9番 二短調 作品125より第4楽章)公演。一般公募による参加者と茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟の皆さんで構成されるコーラス隊には、今年も300人を越える方々にお集まりいただきました。9月から始まった練習の度に目にする、指揮者の鈴木良朝氏はじめ指導者の先生方の熱心な姿や、歌う喜びに溢れているコーラス参加者の皆さんの様子に、この公演を継続して開催できることを、ありがたく思います。

さて、今年の独唱者をご紹介します。まず、ア

ルト・大木円さん、バリトン・小橋琢水さん。お2人は、皆さんのご記憶にも新しいでしょう。今年9月の「茨城の名手・名歌手たち 第18回」公演で素晴らしい歌声を披露してくださいました。当公演の総監督である畑中良輔氏の推薦を受けての登場です。「名手・名歌手たち」の先輩、ソプラノ・結城滋子さんと、二期会の新進テノール歌手・寺田宗永さんとともに、この大舞台を立派に務めてくれることでしょう。そして、水戸芸術館オリジナル編成による器楽奏者の皆さんが、今回もオーケストラに負けない、迫力ある演奏を聴かせます。

ベートーヴェンの誕生日とされるこの日、人類愛に溢れた壮大なメッセージに耳を傾けに、ぜひ広場にいらしてください。そして、「よるこびの歌」に声を合わせてみてください。悪天候の場合は、コンサートホールATMでの開催となりますが、お天気がどうあれ、皆さんのなかに希望の光が満ちてくることでしょう。

《中崎》

コーラス募集要項等で、ソプラノ独唱者を小濱妙美さんとお知らせしておりましたが、都合により結城滋子さんになりました。

## SELF

## PORTRAIT

茨城大学教育学部音楽科主任教授と茨城演奏家連盟会長を務めるピアニスト 佐藤 篤。

水戸芸術館2年ぶりのリサイタルはショパン、ドビュッシー、ラヴェルのトライアングル。

### 12 / 1(土) 佐藤 篤 ピアノ・リサイタル

私こと2002年よりスタートいたしましたピアノリサイタル・シリーズ「同世代を生きた作曲家達」(全6回予定)その5を「二人の印象派作家とショパンのとても二等辺な三角関係」と題しまして、いわき、帯広、水戸の三ヶ所に開催する運びとなりました。

ところでそのタイトルの意味するところは、今回のプログラムがピアノ音楽の頂点を築き上げたショパンを底辺とし、印象派の二大旗頭のドビュッシーとラヴェルを二等辺に見立てた三角形の構図という意味合いで、所謂世間で言うところの「三人の男女間のもつれた恋愛関係」とは無関係で、あくまでも音楽芸術創作上の三者の関連を聴衆の皆様と共に感じてみようとの試みで御座います。

このアイディアは、フランス人(父)とポーランド人(母)の混血児であり、ポーランドに生まれフランスで生涯を閉じた孤独な流浪の民—ショパンが音楽家として、滅亡した祖国ポーランドと新天地フランスに負うものは何か、同時に生粋のバリジャンである二人の印象派作家が、異郷の地パリで社交界の寵児となったピアノの詩人—ショパンの才能とその珠玉のごとき名曲から触発されたものは何か等々、多少時代のずれはあれ、同じフランスで繰り広げられた三者の音楽芸術活動の集大成において民族、血筋等の違いがどのように反映されているだろうかとの観点で、彼らの

作風を音楽表現の究極的行為である「演奏」を通して見つめてみようとの思いが、ふと私の心をよぎったことがきっかけで御座います。

閑話休題、自分で言うのもなんですが今回のプログラムのハイライトについて一言二言。先ずラヴェルの高雅にして感傷的なワルツ「優雅なウィンナーワルツ」の概念を完全に覆したもので、時にグロテスクなリズムとハーモニーを背景に激しい情念を感じさせるものです。同じくラヴェルの「逝ける王女のためのパヴァーヌ」とショパンの「葬送行進曲」は彼らの、いずれ誰もが迎える「死」に対する想念と言ったものの違いが克明に感じられます。最後のドビュッシーの前奏曲集 第1集「彼のピアノ作品の集大成とも言える実に詩情豊かな名品です。皆様に少しでも満足いただける演奏が出来るよう祈りつつ、いつもながら公務の合間を縫って練習する日々を送っています。

佐藤 篤

## 最近の公演から

September  
October



1



2



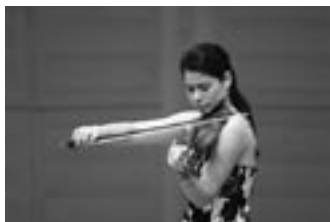
3



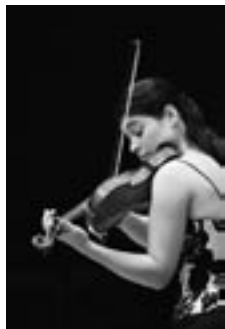
4



5



6



7

茨城の名手・名歌手たち 第18回(9月8日)  
地元に関わりのある優れた音楽家を紹介しようと水戸芸術館開館以来、毎年継続して開催している「茨城の名手・名歌手たち」。第18回を迎えた今年は、管楽器・打楽器・声楽・器楽アンサンブルの各部門を対象にオーディション、演奏会を行いました。厳しいオーディションの審査をへて演奏会に出演したのは、Duo La Bilancia(ピアノ・デュオ) 桑名奈津子さん(フルート) 大木円さん(メゾ・ソプラノ) 菅田真文さん(チューバ) 小橋琢水さん(バリトン) 大山真理佳さん(フルート) 財木麗子さん(ソプラノ) の皆さん(司会はオーディション審査委員長の畑中良輔氏)。豊かな個性に彩られた演奏が次々に繰り広げられ、ホールに詰めかけたたくさんの聴衆を魅了しました。出演者の皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。《関根》アンケートから 1人1人の演奏がすばらしかったです。そして、さすががしく、さわやかでした。技巧的にすばらしいだけでなく、何か柔らかさ、新鮮さを感じました。(つくば市:Y.S.さん) すばらしいの一言です。(鹿嶋市:Y.K.さん) 出演者の今後の活躍を期待しています。(水戸市:Y.U.さん)

### ブルーエズの肖像(9月14日)

ブルーエズ氏自身の監修の下に実施した演奏会。出演は、スイスのルツェルン音楽祭のアカデミーでブルーエズ直々に教を受けた15名の器楽奏者たち。指揮は、今回初来日となる俊英ジャン・ドロワイエ。ル・マルトール・サン・メートルの声楽パートには、ヒラリー・サマーズが出演した。音楽学者の白石美雪氏による解説が演奏に先立って行われ、さらに、ル・マルトール・サン・メートルの日本初演を手がけた指揮者の若杉弘氏による当時のエピソードの紹介があった。なお、水戸公演に先立ってルツェルンで行われた演奏会の模様などを音楽学者の笠羽映子氏がレポートくださった「ルツェルン・ニュース」(全8号)を水戸芸術館のホームページ上で公開している。是非ご覧いただきたい。また、9月25日付けの読売新聞の夕刊にて沼野雄司氏による批評が掲載されているので、あわせてご参照いただきたい。《中村》アンケートから 瞬間的な即興性と各パートの連続性というものを限りなく要求されるこの様な現代音楽を、世界を代表する若きエリート達は、見事に演じて下さいました。年に一度はこの様な現代音楽のコンサートを企画して欲しいと思います。(茨城町:H.I.さん) 第1音が出た途端、心臓がドキッ!なぜかしばし動揺、ドキドキしてました。音が新鮮。いかにも現代音楽と言う不思議な響。難解では?と思った当初の予想とは逆に、音の響に聴き入ってしまいました。(R.A.さん) 前半は冷涼幽玄の響で、さえわたる月光を想起させました。後半の疾走するドライブ感はフリージャズのようでもあり、エ

ネルギッシュな熱演に感動しました。全体を通して何か禅的なものを感じさせる演奏会でした。(水戸市:T.M.さん)

BACHのための4人 その3・Clarity(明晰さ) ミリヤム・コンツェン 無伴奏ヴァイオリン・リサイタル(9月28日)

刺激的な活動を展開している演奏家がバッハと一対一で向き合うリサイタル・シリーズ「BACHのための4人」。4月の高橋悠治(ピアノ)、7月の西山まりえ(チェンバロ)に続き、第3弾にはヴァイオリンのミリヤム・コンツェンが登場した。プログラムは、バッハ 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番 を基点とし、イザイ、クライスラー、バルトークといった20世紀の作曲家たちが偉大なバッハの作品にどう挑んだかを聴くという意欲的な内容だった。水戸室内管弦楽団との2度目の共演以来4年ぶりの登場となったコンツェンは、一段と成長した姿を見せ、それぞれの作品の偉大さを明晰な演奏で伝えてくれた。アンコールは、バッハ 無伴奏パルティータ第2番 からサラバンド。《関根》アンケートから 特に心に残ったのは、1曲目のバッハです。このように澄んだ美しい音色は、めったに聞けるものではありません。この鋭敏で、圧倒的に豊かな感受性は、日本人であるお母さんから受け継いだものではないかと思ってしまいました。(東茨城郡:H.I.さん) 無伴奏曲4曲という企画がある意味、ぜいたくで良かった。コンツェンさんのクリアな高音、豊かな中低音、明確で真摯な演奏も期待通りだった。できればもっとバッハが聴きたかった。(稲敷郡:無記名の方) 力強く、明晰。クライスラー、バルトークもすばらしかった。初めて聴いた曲だが、今日この演奏で出会えて本当に良かった。アンコールも胸を打たれた。(無記名の方)

BACHのための4人 その4・Heart(心) マリオ・ブルネロ 無伴奏チェロ・リサイタル(10月6日)

シリーズ「BACHのための4人」の最終回には、チェロのマリオ・ブルネロが登場した。プログラムは、バッハ 無伴奏チェロ組曲第2番、カサド 無伴奏チェロ組曲、バッハ 組曲第5番 というもの。言うまでもなく、チェロの聖書とも称されるバッハの無伴奏作品2曲で、20世紀スペインの作曲家であり、チェリストでもあったカサドの作品をはさむというものだ。面白いことにアンコールではこの関係が逆になり、ソリマ コンチェルト・ロンド から「ヤフー」、バッハ 組曲第1番 からプレリュード、ソリマ ラメンタート の3曲が演奏され(ソリマは現代イタリアの作曲家) 現代の作品でバッハをはさむ構成をとった。この見事なプログラミング、そしてブルネロの情感溢れる演奏によって、バッハ

## 最近の公演から

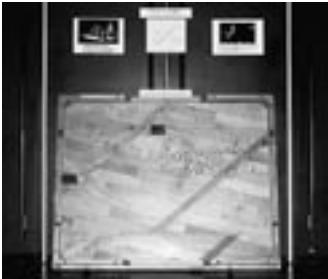
September  
October



1



2



3



4



5



6



7

と現代の作品は見事に同一線上で結ばれた感があった。《関根》アンケートから プルネロのバッハは意外に聴く機会がないので、貴重な一夜でした。今年の水戸は「マリエッタ伝説」と「プルネロ伝説」を新たに生み出しましたネ！（無記名の方） 圧倒されました。息を呑みました。バッハは神の声のようで、カサドは熱き血流れる人の魂の声のよう。（R.A.さん） 暗闇の中でスポットライトだけを浴びて演奏するプルネロ氏は、レンブラントの肖像画のようです。音も陰影に富んで、彫りの深い感じ。音が光と影のように感じられました。（水戸市：S.E.さん） あんなチェロは初めて聴きました。自分は演奏者のことを知らずに来ましたが、今日来て良かったと思います。（日立市：K.O.さん）

「BACHのための4人」関連企画

映画『ロストロポーヴィチ 人生の祭典』

（9月20日、会場：ACM劇場）

「BACHのための4人」関連企画映画上映 共催はNPO法人シネマパンチ。今年4月に逝去した名チェリスト、ロストロポーヴィチと、妻ガリーナの波瀾の人生を描く、アレクサンドル・ソクーロフ監督の傑作ドキュメンタリー。東京で公開され話題になった作品の水戸初上映であり、平日の夜にもかかわらず100人を超えるお客様にご来場いただいた。当日、劇場前入り口には、ロストロポーヴィチが水戸を訪れたときにサインを残した色紙とチェロ台を展示。バッハ 無伴奏チェロ組曲 をこよなく愛した巨匠と、彼の人生を変えた国家と社会に思いをめぐらす夜となった。この上映に関するより詳しい情報は、<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> 「ロストロポーヴィチ 人生の祭典」の項目をご覧ください。《矢澤》アンケートから 映像でもチェロの演奏はとりはだでした。ガリーナの芸術家に対する考え方にもなる程と思いました（水戸市：Y.H.さん） 厳しさ ユーモア 歴史 すべてに感激しました（水戸市：R.O.さん） ロストロポーヴィチをさらに良く知る機会となり、大変嬉しかったです。本日のような企画を是非今後も続けていていただきたいと思います（無記名の方）

第46回あひる会合唱団定期演奏会（9月23日）

50年以上の歴史を誇る水戸の混声合唱団、あひる会合唱団の演奏会。今回は、常任指揮者の鈴木良朝氏が健康上の理由で出演を見送るという困難な状況での演奏会開催となったが、こういうときこそ充実した活動を続けてきたあひる会の底力がものを言う。菅波ひろみさん、打越孝裕さんという2人の副指揮者を中心に見事なステージが繰り広げられた。ピアノの生井澤紀江さんのほか、第3ステージ、ラター 子どものミサ に加わった結城滋子さん（ソプラノ）清水良一さん（バリトン）、ひたちなが少年少女合

唱団、NHK水戸児童合唱団の皆さんも演奏に彩を添えた。《関根》アンケートから 本当によかった。心がいやされました。（無記名の方） とてもすてきな歌声でした。選曲も変化があり、退屈せずに楽しめた。（無記名の方） 少年少女が加わった演奏の美しさは、特別に光っていました。（水戸市：S.K.さん） 豊かな響きがとてもよかったです。さびしいカシの木、千の風になって、言葉にならないと第3ステージが特に心に残りましたので、アンコール曲が編成の違う さびしいカシの木 で嬉しかったです。

山口泉恵・弘中孝 ピアノ・デュオ・リサイタル（10月8日）

茨城県内を中心に活躍するピアニストの山口泉恵と、ソロから室内楽まで幅広い演奏活動を行っている弘中孝によるピアノ・デュオのリサイタル。プログラムは、モーツァルトの2台ピアノ作品にはじまり、ブラームス、リスト、ラヴェル、ラフマニノフの大曲から構成された、演奏家たちの気概を感じさせるものであった。2台のピアノによる息を合わせた演奏というのは、非常に難しいとされている。しかし、両氏の演奏はそうした困難を感じさせず、それぞれの個性が互いに影響され合いながら、とても伸びやかでダイナミックな音楽表現が成し遂げられているものであった。アンコールは、J.S.バッハの 主よ、人の望みの喜びよ。《中村》アンケートから 師弟が励まし合うというか、競い合うというか、もえ立つというか、一つになって素晴らしい演奏でした。次回も是非、と期待します。（無記名の方）

今回は、演奏がなかなか難しい、2台ピアノのリサイタルを聴くことができ良かったです。特にハンガリー狂詩曲 は、すばらしかったと思います。（石岡市：S.S.さん） 若さあふれる演奏で、とても心地よかったです。（いわき市：Y.H.さん）

ATM アンサンブル第22回演奏会（10月16日）&第14回碧南演奏会（10月17日）

昨年4月の第21回演奏会に続き、クラリネットの名匠カール・ライスターがATMアンサンブルと2度目の共演。第21回演奏会がモーツァルトを取り上げた「春」の音楽会なら、今回はブラームス晩年の哀感漂うクラリネット五重奏曲を核とした「秋」の音楽会。チャイコフスキー（武満 徹編曲）の 秋のうた が冒頭を飾り、ブラームスの 弦楽五重奏曲 第1番 が実りの秋の活気をもたらす。ライスターとATMは2度目の共演でもあり、そのコミュニケーションはいっそう密。70歳を迎えるライスターの至芸は健在だが、曲の陰影に深く共感し、寄り添うような歌が印象的。「この曲は、心臓が止まるように終わる」と練習中述べていたライスターは、その余韻を尊重するためにもアンコールなし。演奏会では、最後の音符が消えたあと、長い沈黙を経て静か

1～2. マリオ・プルネロ 無伴奏チェロ・リサイタル 3. ロストロポーヴィチ氏サイン入り指揮台

4～5. あひる会合唱団定期演奏会 6～7 山口泉恵・弘中孝 ピアノ・デュオ・リサイタル



1



2



3



4



5

1～3. ATMアンサンブル第22回演奏会  
4～5. 班目加奈トランペット・リサイタル

に感動の拍手が始まり、やがて高まっていった。17日には碧南市芸術文化ホールで同プログラムの演奏会。ライスター& ATMはここでも入魂のパフォーマンス、客席内では涙するお客様の姿も見受けられた。なお両演奏会の詳しい情報については <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> の「ATM アンサンブル」の項目をご覧ください。《矢澤》アンケートから クラリネット・クインテットの緩徐楽章は本日の白眉。心にしみ入る様な名演だった(水戸市:T.M.さん) クラリネット五重奏曲では何度も涙が出そうになりました(日上市:Y.M.さん) 弦楽五重奏曲が特によかった。甘美的ではひたちなか市:T.K.さん) 秋のうた を聴きながら武満さんのお顔を思い出しながら(中略) 幸いばいでした(無記名の方) 今回も東京から来ました。来た甲斐がありました(東京都:K.H.さん) 水戸にお住まいの方がうらやましいです。ハーモニー、かけあい、演奏してる方が本当に楽しそう(無記名の方) 結婚10年の記念に来たのですが、大変良い思い出になりました(水戸市:K.I.さん) 美しい「秋のソナタ」をきかせていただいてありがとうございます(水戸市:S.E.さん)

班目加奈 トランペット・リサイタル(10月28日)

「茨城の演奏家による演奏会企画」2度目の登場となるトランペットの班目加奈さん。今回はコルネットを携え、プリティッシュ・スタイルの金管バンド、ジャパン・レディス・プラス(JLB)と共演。前半は英国の作曲家スパークの作品。班目さんのコルネットの柔らかな音色が響くコルネット協奏曲 など3曲。後半は編曲作品を集めた、音楽によるヨーロッパ諸国の旅。ロッシェズ(スネル編曲)の2匹の猫 ではワー・ワー・ミュートをつけた班目さんともう一人がユーモラスに猫の鳴き声を模し(コスプレ付き!)、最後

のウイラン(ファー編曲)リバーダンス では班目さんが客席から登場するなど、楽しい趣向溢れるステージだった。詳しい演奏曲目、およびプリティッシュ・スタイルの金管バンドについては、<http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> の「茨城の演奏家による演奏会企画」の10月27日、28日分をご覧ください。《矢澤》アンケートから 育児に追われる日々からひととき離れ、ヨーロッパ旅行を楽しませていただきました(無記名の方) 金管バンドは珍しく今日の出会いに感動しました(無記名の方) こんな柔らかな音は聞いたことが無い。(中略) この手のジャンルをあまり聴かない私にも親しみやすかった(水戸市:K.I.さん) 音がとてもきれい(水戸市:M.T.さん10歳) オリエント急行で本当に列車に乗った気分になりました(ひたちなか市:M.S.さん)

## 速報:MCO 最新CD 発売!



満を持してスタートし、今年に入つてすでに2枚がリリースされている「小澤征爾&水戸室内管弦楽団 モーツァルト・シリーズ」の第3弾が、ソニー・ミュージックジャパンインターナショナルから11月21日(水)に発売されます。曲目はいずれもモーツァルトで、交響曲 第41番 八長調 K.551「ジュピター」、ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219「ブラハ」(ヴァイオリン独奏:潮田益子)の2曲。K.551は2006年12月、K.219は2003年2月、いずれも水戸芸術館でのライブ収録です。定期演奏会の感動をもう一度...という方も、残念ながら聴けなかった、という方も、SACDハイブリッド仕様の極上の録音でぜひお楽しみください! CD番号はSICC-10069、価格は¥3,045です。もちろん、水戸芸術館ミュージアムショップ「コ

ントルポアン」でも扱います。お問い合わせはTEL029-227-0492へどうぞ。なお、絶賛発売中の「小澤征爾&水戸室内管弦楽団 モーツァルト・シリーズ」第1弾、第2弾もご紹介しておきましょう。第1弾は 交響曲 第40番 ト短調 K.550 および 協奏交響曲 変ホ長調 K.Anh.9(297B)(レヴィン復元版)の組み合わせ。協奏交響曲の独奏者はフルート:工藤重典、オーボエ:宮本文昭、ファゴット:ダーク・イェンセン、ホルン:ラデク・バボラークです。CD番号はSICC-10046。第2弾は 交響曲 第36番 八長調 K.425「リンツ」、交響曲 第38番 二長調 K.504「ブラハ」、モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」K.165(ソプラノ:森 麻季)の3曲を収録。CD番号はSICC-10047です。

## information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000

営業時間/9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

【ATM 便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM 水戸「芸術よもやま話」金曜日 18:15 頃から 15分ほど。水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」毎週水曜日・朝 6:50 頃から約10分間 水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

## チケット・インフォメーション

### 12月1日(土)発売分

ちょっとお昼にクラシック7 ことばと音楽の素敵な関係

2/29(金) 13:30 開演 料金(全席指定): ¥1,200(ドリンク付)

この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)

椎名雄一郎オルガン・リサイタル

3/10(月)18:30 開演 料金(全席指定): A 席 ¥2,500 B 席 ¥2,000

合唱セミナー 2008 講師: 古橋富士雄

3/16(日)10:00 開始 参加費(全席自由): 一般 ¥1,000 高校生 ¥500

中学生以下 ¥300

### 12月2日(日)発売分

女声合唱団 アルモニア Rosa コンサート

2/3(日)14:00 開演 料金(全席自由): 一般 ¥2,000 学生(高校生以下) ¥1,000

第28回 日本フルートフェスティバル in 茨城(茨城笛の会フルートオーケストラ)

3/9(日)14:00 開演 料金(全席自由): 一般 ¥2,000 学生(高校生以下) ¥500 一般前売り ¥1,800

小野智恵 ピアノ・リサイタル

3/22(土)18:00 開演 料金(全席自由): [前売り] 一般 ¥2,000 高校生以下 ¥1,000 [当日] 一般 ¥2,500 高校生以下 ¥1,200

## これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) ×...残席なし 中央

...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

佐藤篤ピアノ・リサイタル

12/1(土).....自由席

クリスマス・プレゼント・コンサート 2007

12/23(日・祝).....中央 × 左右・裏

ニュー・イヤー・コンサート 2008

1/5(土).....中央 × 左右・裏

モーツァルト: ピアノ・ソナタ全曲演奏会

【第1回】1/25(金).....中央 × 左右・裏

【第2回】3/28(金).....中央 左右・裏

11/4(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館 12・1月のスケジュール

コンサートホールATM

佐藤篤 ピアノ・リサイタル

12/1(土) 16:00 開演 料金(全席自由): ¥4,000 IFM 会員優待券 ¥1,000

水戸芸術館友の会 第48回鑑賞会 パヴィメント・ジャパン

12/2(日) 17:30 開演

料金(全席指定): 一般 ¥3,500 学生 ¥1,000 友の会一般会員 ¥2,500

アートタワーみとスターライトファンタジー 第12回クリスマス・コンサート

12/9(日)[午前部] 9:40 開演 [午後部] 14:00 開演 入場無料

水戸の街に響け! 300人の《第九》

12/16(日) 12:00 開演 / 13:30 開演(2回公演) 入場無料

会場: 広場(悪天候の場合、コンサートホールATM)

クリスマス・プレゼント・コンサート 2007

12/23(日・祝) 17:00 開演 料金(全席指定): A 席 ¥3,000 B 席 ¥2,000

ニュー・イヤー・コンサート 2008

1/5(土)18:00 開演 料金(全席指定): S 席 ¥5,000 A 席 ¥4,000 B 席 ¥3,000

高校生音楽講座 in 水戸芸術館 2007

第6回「モーツァルト、どうしてそんなにすごい?」

1/17(木) 17:00 ~ 19:00 参加費: 1回券 ¥200

親と子のふれあい芸術文化事業 ロバの音楽祭「ガラン・ピー・ボロン音楽会」

1/20(日)14:00 開演 料金(全席自由): 一般 ¥1,000 3歳から小学6年生 ¥500

モーツァルト: ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第1回】

1/25(金)18:30 開演 料金(全席指定)1回券 ¥2,500 3/28との2回通し券 ¥4,000

エントランスホール

パイプオルガン ブロムナード・コンサート

12月: 8日(土) 15日(土) 22日(土)

1月: 12日(土) 19日(土) 26日(土) 27日(日)

クリスマス・スペシャル

12/24(月・祝) 合唱指揮: 寺門芳子 合唱: 県立水戸第二高等学校コーラス部

オルガン: 石丸由佳

開演時間: 12:00 / 13:30(2回公演) 1月27日のみ 12:00/13:00

入場無料 演奏は各回20分程度です。

エントランスで踊ってみる 26「アリスと迷宮—プレビュー版—」

1/12(土) 13:00 / 15:00(2回公演) 入場無料

ACM劇場 修繕工事のため、2007年10月上旬から12月末まで一時閉館いたします。

ACM劇場プロデュース公演 NEW STANDARD SERIES

『12ライアーズ—評決者たち—』

1/18(金) 19:00 開演、1/19(土) 19:00 開演、1/20(日) 14:00 開演

1/25(金) 19:00 開演、1/26(土) 19:00 開演、1/27(日) 14:00 開演

料金(全席指定): 一般 ¥3,000 団体(10名以上) ¥2,700 学生 ¥2,000

友の会一般会員 ¥2,000

11/23(金) チケット発売

現代美術センター

松井龍哉展—フラワーロボティクス

11/3(土・祝) ~ 1/27(日) 9:30 ~ 18:00(入場は17:30まで)

休館日: 月曜日 ただし、12/24、1/14(月・祝)は開館、翌12/25、1/15(火)

は休館。年末年始 12/27(木) ~ 1/3(木)

料金: 一般 ¥800 前売・団体(20名以上) ¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

## 茨城の主な12・1月の演奏会 有料公演のみ

ページの都合により、水戸市内および近隣の公演のみとさせていただきます。

佐川文庫 TEL / 029(309)5020

サロンコンサート 川崎洋介(Vn)・V.セレブリャーニー(P) デュオ・コンサート

12/1(土)18:00 開演

水戸市民会館 TEL / 029(224)7521

シャントウール・ドウ・ミト コンサート 2007

12/2(日) 16:00 開演

新ピアニスト協会 ピアノコンサート「ベートーヴェン」

12/21(金) 18:00 開演

茨城交響楽団第95回定期演奏会

12/24(月) 14:00 開演

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

長須与佳コンサート ~ もとり・かーな ~

12/1(土)17:00 開演

ひたちなか市芸術祭 ひたちなか市民吹奏楽団第23回定期演奏会

12/23(日)14:00 開演

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

Hitachi Starlight Illumination 矢野顕子リサイタル 2007

12/7(金)18:30 開演

ピアノデュオコンサート プリムローズ・マジック・クリスマス トークコンサート

12/9(日)14:00 開演

もうひとつの「アマールと夜の訪問者たち」(ハイライト)

12/22(土)16:00 開演

第13回ニューイヤーオペラコンサート

1/13(日)14:00 開演

オペラ「アマールと夜の訪問者たち」

1/20(日)13:00 / 16:00(2回公演)

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】2007年11月発行 第130号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP/村田征司(有限会社アートワークス)

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は...

水戸の春を飾る音楽会の数々!